



砂場がすごいんだよ

園長 立石 晃子

若葉が茂り、緑が鮮やかな季節になりました。ドナウ通りは日を追うごとに色とりどりのツジが花開き、街が賑わいを見せています。

始業式・入園式から1か月経った幼稚園では、子供たちが元気に園庭で遊ぶ様子が見られます。私が園庭の様子を見にいくと、あるお友達が私のところに来て、「園長先生！砂場がすごいんだよ！！山（築山）の上から（雨どいを使って）水を流してるんだよ！」と教えてくれました。年長児は裸足になり、南千住第二幼稚園ならではの砂場と築山が接している地形を生かし、砂場でのダイナミックな遊びをしていました。数日が経ち、今度は年中組が同じように雨どいを築山から砂場までつなげ、タライに入った水をジョウロですくっては築山の上から流していました。水を流すことを何度も繰り返し、流れる様子をじっと見入っている年中児でした。年少児はもも組前の砂場遊びが楽しくてたまらない様子です。登園時は保護者の方との別れがちょっぴり寂しく泣いてしまっていた年少児ですが、園庭遊びになると元気に飛び出していきます。担任の先生も一緒に裸足になり子供たちと砂場遊びを楽しんでいます。シャベルで砂をすくい入れ物に入れ、日に日に型抜きがうまくできるようになったり、水を混ぜたり・・・3歳児だからこそ、様々な感覚を使ってじっくりと砂と対峙できる大切な時間です。



学習院大学教授の秋田喜代美先生は砂場について、「どの園でも、この季節は、砂場が子どもを受け入れてくれる場になっている。」「ゆったりとした場と時間が子どもたちを育てていく。その姿をよく見て、共によく考える保育を大切にしたい」と仰っています。本園は昨年度に引き続き、「とうきょうすくわくプログラム」に参加し、幼児の探究活動に取り組んでいます。子供たちが諸感覚を使って対象物とじっくりと関わる場をつくり、じっくりと関わる中で対象物の性質や特徴などの様々な気付きや発見を共に楽しみ、次への意欲や知的好奇心へとつなげていきます。

【お知らせ】

シルバー人材センターより預かり教育児童見守り推進として、松谷 康弘さん・芳賀 政子さんが見守りをしてくださいます。（17：00以降）

5月1日より、預かり教育担当幼児教育補助員 右近 きよえ が着任しました。

楽しいこといっぱい！子どもたちの園生活

< 3 歳もも組 >

あれはなんだろう？これもやってみたい！わくわくいっぱい幼稚園！

朝ニコニコで門をくぐれるようになり始め、カバンの中からタオルやコップを出すのも慣れてきて、支度が終わるとおままごとや電車遊び、粘土やパズル遊びなどしたいことを見付けてじっとりと遊んでいます。楽しそうなことを見付けるのが得意な子供たちは、お友達やお兄さんお姉さんがしていることにも目が向き「私もやってみたい！」「あれはなあに？」などと興味津々です。

弁当給食では「おいしいおべんとうが届きましたよー！」という担任の声に、目をキラキラさせて集まり、みんなで一緒に一つひとつ準備をしています。「フルーツは最後に食べると、一番おいしくなって待っててくれるのよ！」と話す、「もうおいしくなったかな...」「もういいかな...」と、にこにこして食べ進めています。幼稚園の生活のいろいろな部分に子供たちのわくわくがどんどん広がっています。日に日に子供たちの視野が広がっていき、さらに楽しいことを見付けていくことでしょう。担任もともにわくわくを共有しながら、思い切り楽しんでいきます。

< 4 歳たんぼ組 >

この遊び楽しい！あれもしたいな！次は何しようかな？

進級して3週間が経ちました。年中組の子供たちはすっかり自分の保育室での生活に慣れ、自分のやりたい遊びを見付けて毎日意欲的に遊んでいます。「先生、一緒に　　しよう！」と担任を誘って一緒に遊ぶことや困ったときには「先生、　　手伝って？」と頼ろうとする様子もあり、少しずつ担任への親しみをもち始めてくれているのかなと嬉しく感じています。また、天気の良い日には水遊びや泥んこ遊びをする子もたくさんいます。年中組になると使うことができる大きな砂場に勇み足で集まる子供たち。たらいの水を繰り返し汲んで大きな海を作ったり、築山に水をかけて泥んこ滑り台で全身泥んこになったりと、それぞれが目輝かせながら遊んでいます。

5月はクラスで育てているミニトマトも大きく生長し、子供たちの自然への関心はさらに高まっていくことでしょう。自然との関わりや日常の遊びのなかでの子供たちの姿を大切に捉え、様々な思いを丁寧に受け止めながら援助していきます。

< 5 歳ばら組 >

もっと知りたい！探してみよう！わくわくがたくさんのはら組！！

ばら組の子供たちとの生活をスタートして、たくさん成長している姿に驚く毎日です！！朝の身支度を一人で行っている姿、係りの仕事を友達と一緒に頑張る姿、友達に譲ってあげる姿など年少組の頃には見られなかったたくさんの姿があります。個人面談でもお伝えしましたが、近くにいと成長や頑張りが当たり前になってしまう毎日ですが、少し離れた場所からまた新たに担任をすると、こんなにできることが増えたのだなと嬉しく思っています。みんなで子供たちの頑張りを言葉で褒めてあげられる一年にしたいですね。また、年長組だけで散歩に行きました。瑞光橋公園に春を探しに行ったり、オタマジャクシを捕まえ保育室で育てたりしています。図鑑を見て「足が先に生えるんだって」「メダカの餌を食べるんだって。ほうれん草も！！」など自分たちで調べて虫眼鏡で観察する姿もありました。今の時期にしか体験できない自然とのつながりも大事にしながら、子供たちの興味関心を広げていきます。